

緑の風 FAX版

NO. 18
2017年2月8日
JR東労組情宣部

**福島・宮城・山形、各拠点の防災士が結集！
災害から命を守る鉄道・バスをつくりだすぞ！**



2月5日 仙台地本

2月5日、仙台地本防災士会議が開催され、福島・宮城・山形の三県で活動する仙台地本の防災士の仲間が結集し、昨年11月22日に発生した福島県沖地震の対応について議論しました。

参加者の意見

- ・出勤の判断を求め職場に電話した社員に対して「命を守ることが大事！」と社員に避難することを強く説いた助役がいた。素晴らしい助役だ。
- ・テレビが「つなみにげて」とテロップを流し避難を呼びかける中、JR東日本は沿岸線区の列車を運転させた。大震災の教訓が全く活かされていない。
- ・「危ない」と思っても列車を止めて避難するのは難しい。指示が絶対化している。私たちの危機意識を高めなくては！会社は責任を現場に押しつけるな！
- ・現場を知ることと経験が重要だ！転勤が多くて現場が把握されていない。ステップで考えるのではなく、各職種のフ口をつくるのが重要だ。

その後、各職場の防災課題について議論し、防災士が各職場で実践し、運動を通じて職場の防災意識を高めていくことを確認しました。そして、仙台地本防災士は「災害から組合員と乗客の命を守る鉄道・バス」を目指して、運車・営業・工務・メンテ、鉄道・バスといった「系統を越えた」現地踏査をつくりだしていくことも確認しました。

防災・減災の取り組みを職場からつくりだそう！